

川俣正 北海道インプログレス 直筆ドロ잉展 IN i-BOX

三笠生まれ、岩見沢東高校出身の川俣正氏は、地域市民や学生らと制作をおこなう「ワーク・インプログレス」という手法で「現代アートのあり方」を考えることを目的に、回遊型プロジェクト「北海道インプログレス」を展開しています。2011年からその拠点として三笠プロジェクトを開始し、旧美園小学校体育館の中に「かつての炭鉱町のイメージの巨大インスタレーション」を3年間かけて完成。今後はインスタレーション公開を積極的におこなう予定です。

北海道教育大学岩見沢校では、アートマネジメント美術研究室が中心になり、準備段階から多くの学生が参加してきました。研究室所属学生だけでも既に延べ100人以上、岩見沢校美術系の学生全体では延べ500人を超える学生達がインスタレーション制作やグッズ製品化、公開準備等に関わってきました。

学生らには、川俣氏をはじめ、室蘭工業大学建築計画研究室や支援組織「三笠ふれんず」会員の皆さま、夜の部分のインスタレーション制作をしたコールマイン研究室など、多くの人々との交流が生まれました。インスタレーション制作やグッズ企画に主体的に関わることで、各自が地域の歴史や文化伝統を理解し、現代アートのあり方や美術の潜在力を体感していきました。これらの体験が学生達の人間的な成長につながっている実感は年々増してきています。卒業後も「三笠ふれんず」に入り会員として関わり続ける学生も多くなっており、研究室では、今年から開始する「岩見沢プロジェクト」にも継続的に関わっていく予定です。

長期にわたるプロジェクトは、会員制支援組織「三笠ふれんず」がプロジェクト趣旨に賛同する延べ500人近い会員の年会費とグッズ収入を財源として、自立的におこなわれています。今回の展示は、第1期～第3期の会員特典として、川俣氏が1枚ずつ異なるイメージを描いたブランドロ잉をお借りして実現できました。第4期の会員特典『三笠プロジェクトカタログ』と第5期の会員特典見本も展示し、プロモーション映像や新グッズの公開、作品見学バスツアーも開催いたします。今回の展示を機会として、これらの活動に興味を持っていただければ幸いです。

最後になりましたが、この展示企画のために川俣正氏、三笠ふれんずをはじめ、多くの方々にご協力いただきました。研究室一同から感謝を申し上げます。

アートマネジメント美術研究室 教授 三橋純予